

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	次世代のがんプロフェッショナル養成プラン			担当部局庁	高等教育局	作成責任者			
事業開始年度	令和5年度	事業終了(予定)年度	令和10年度	担当課室	医学教育課	医学教育課長 伊藤 史恵			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	がん対策基本法第15条			関係する計画、通知等	がん対策推進基本計画(第3期)(平成30年3月閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針(令和4年6月閣議決定) がん対策推進基本計画中間評価報告書(令和4年6月)				
主要政策・施策				主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	我が国における高齢化や都市部への人口の集中がますます加速する中、現在の死因第一位である「がん」への対応は極めて重要である。地域格差に加え急速ながん医療の高度化に伴い、新たな課題が浮上してきたことから、がん医療の新たなニーズや急速ながん医療の高度化に対応できる医療人養成を促進する。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	がん医療の新たなニーズや急速ながん医療の高度化に対応できる医療人養成を促進するため、大学院レベルにおける優れた教育プログラム(①がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成、②がん予防の推進を行う人材養成、③新たな治療法を開発できる人材の養成)を開発し、大学間で連携し、開発・提供を担う拠点を支援する。 【補助率:定額補助】								
実施方法	補助								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	0	0	0	0	969		
	執行額	0	0	0					
	執行率(%)	-	-	-					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	-	-	-					
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由					
	大学改革推進等補助金	-	968	※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。					
	諸謝金	-	0.7	要求・要望額のうち「重要政策推進枠」:968百万円					
	委員等旅費	-	0.2	がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」を養成を行うための経費であり、新規要求。					
	計	-	969						
活動内容 (アクティビティ)	選定大学を対象に、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」を養成を行うための取組を支援する。								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
	各大学の特色を踏まえた教育プログラムの構築	がん専門医療人材養成に係るプログラム・コース実施数	活動実績	件	-	-	-	-	-
			当初見込み	件	-	-	-	-	11
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	執行額/採択件数(事務費は除く)			単位当たりコスト	百万円	-	-	-	-
				計算式	執行額/採択件数	-	-	-	-

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 7 年度	目標最終年度 10 年度
	令和10年度までにがん専門医療人材を200人養成する	各大学が設定したがん専門医療人材養成プログラム・コースにおける養成人数(正規の大学院課程が4年のため、中間目標時には養成途中となる。)		成果実績 人	-	-	-	
		目標値 人	-	-	-	-	200	
		達成度 %						

根拠として用いた統計・データ名(出典)
 目標値: 申請書 教育プログラム・コース 受入目標人数
 成果実績: 取組状況調査

政策評価、 新経済・ 財政再生計画と の関係	政策評価	政策	4 個性が輝く高等教育の振興		政策評価書 URL	-
		施策	4-1 大学などにおける教育研究の質の向上		該当箇所	-
	新経済・ 財政再生 計画改革 取組事項 2021	分野:	-	-		
		(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:				
		該当箇所				

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の 必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	我が国における高齢化や都市部への人口の集中がますます加速する中、現在の死因第一位である「がん」への対応は極めて重要である。当該事業は、地域格差に加え急速ながん医療の高度化に伴い、新たな課題が浮上してきたことから、がん医療の新たなニーズや急速ながん医療の高度化に対応できる医療人材養成を促進するものであり、社会のニーズを反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は、「がん対策推進基本計画」や「経済財政運営と改革の基本方針」等に盛り込まれた人材養成を推進するものであり、政策の優先度が極めて高い事業である。「がん対策基本法」には、がん対策の策定・実施は国の責務と明記されており、国が人材養成を担う大学に対して、財政支援を行いながら強力に推進する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は、「がん対策推進基本計画」や「経済財政運営と改革の基本方針」等を踏まえ、がん専門医療において、現在求められているニーズに対応できる人材の養成を推進するものであり、適切かつ優先度が高い事業である。
事業の 効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	支出先の選定に当たっては、公募を実施し、第三者委員会で選定することにより、その妥当性や競争性を確保する予定。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	支出先の選定に当たっては、公募を実施し、第三者委員会で選定することにより、妥当性を確保する予定。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	交付決定・額の確定の際に、交付先から提出される申請書及び実績報告書に基づいて支出先や使途を確認し、適正なコスト水準かを厳正に確認する予定としている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	交付決定・額の確定の際に、連携先や分担金等資金の流れを確認する予定。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	交付決定・額の確定の際に、支出先・使途について厳正に確認することで、事業目的に即した真に必要なものであることを確認する予定。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	事業の実施に当たっては、事業の中間評価の結果を各大学の経費配分に反映させるなど、効率化に努める。	
事業の 有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果目標に適した実績となるよう、実績の把握・中間評価等を実施予定。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	支出先の選定に当たっては、公募を行い、最も効果的・効率的に実施できる者を選定する予定。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	長期的な政策目標の実現に向け、定量的な活動指標を設定するなど、着実な活動実績の向上に向けて実施する予定。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	本事業における成果等については、ホームページや各種メディアへの掲載、選定・連携校間による成果発表等を通じて活用の促進を図ることを予定。

関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)					-
	事業番号					事業名
点検・改善結果	点検結果	本事業は、「経済財政運営と改革の基本方針2022(令和4年6月7日閣議決定)」に盛り込まれた、「がん専門医療人材の養成」を推進するものであり、国が財政支援を行いながら強力で推進する必要がある。支出先の選定に当たっては、公募を実施し、第三者委員会で選定することにより、その妥当性や競争性が確保されることになっている。				
	改善の方向性	本事業の実施に当たっては、毎年度の進捗状況・取組実績等を報告書により確認するとともに、事業評価を実施し、評価結果を踏まえた事業内容の改善・定着、成果の普及・発信を行うこととする。				
外部有識者の所見						
外部有識者点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
事業目的の達成に向け、効率的な予算執行を図り、費用対効果の向上等に努めること						

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				
平成28年度				
平成29年度				
平成30年度				
令和元年度				
令和2年度				
令和3年度				

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

文部科学省
(969百万円)

謝金: 0.7百万円
委員等旅費: 0.2百万円

対象大学から申請のあった事業内容を審査の上、支援対象とする取組を選定し、補助金を交付する。



【公募・補助金等交付】

A. 大学(全11大学)
(968百万円)

各大学がそれぞれの個性や特色を生かした大学間連携により、①がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材、②がん予防の推進を行う人材、③新たな治療法を開発できる人材を養成する。



【補助金等交付】

B. 連携大学

申請担当大学と相互に連携・補完をして優れたがん専門医療人を養成する。

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
-	-	-	-	-	-
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	-	-	-	-		-	-	

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブロック 名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1		-	-	-	-		-	-	

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
								7年度	10年度
令和10年度までにがん専門 医療人材を200人養成する	各大学が設定したがん専門 医療人材養成プログラム・ コースにおける養成人数	成果実績		人	-	-	-		
		目標値		人	-	-	-	-	200
		達成度		%	-	-	-	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	目標値: 申請書 教育プログラム・コース 受入目標人数 成果実績: 取組状況調査								